

1 公演・講座 気づいた点（良かった点、工夫が必要な点）

※神奈川芸術劇場は「KAAT」と表記

公演名/施設	ご意見
王将/KAATアトリウム	<ul style="list-style-type: none"> かつての小屋掛け芝居の雰囲気醸し出す設えだけでなく、王将という芝居の世界観を創り出す仮設劇場公演が大変魅力的である。 最小限のセットと小道具等であるからこそ三部作の各シーンを創り出すことができ、魅力的な演出力を感じさせる舞台となっていた。 その他、舞台美術、舞台照明、舞台音響、舞台衣裳等、それぞれが魅力的な作品に仕上げることに大変貢献をされていたと感じた。 <ul style="list-style-type: none"> エントランスにステージを設けた演出は興味深く、規模に応じたセットも充実し、さらに臨場感がありよいと思った。ただし、座席の背もたれが少し痛かった。（個人的な主観の可能性あり） KAATならではの公演であり、ここからできる内容だと思う。 セット券の販売があり、わかりやすくよい。 <ul style="list-style-type: none"> 新芸術監督による今年度のラインナップが発表された時、就任後初の芸術監督演出作品が「再演」だということに、少し意外な感じがしました。しかし考えてみたらこれが「新芸術監督流」なのかな、と考えると、観客にこれまでとは違ったKAATの姿を提示したとも言えると思います。新たなKAATに対する期待を膨らませた人は私だけではなかったと思います。 観客に壮年の男性が多かった印象を受け、将棋に興味のある方が多く来場していたのだろうか？と思いつながら見ていました。何に興味を持ってチケットを購入しているのか、情報収集して広報に役立てていただきたいです。 <ul style="list-style-type: none"> 1Fアトリウムの特設会場での実施という特徴ある公演で、新芸術監督の劇場を開いていきたいという意欲については好感が持てた。しかし、もともとの意図であった、通行人に足を止めてもらうような企画の数々はコロナのせいできなくなっており、そうした企画が実現していたら、もっとよかつただろうに、というのは残念だった。テクニカルな面では、アトリウムの特設会場での実施は、課題も多く、スタッフは大変だったと思う。コロナで、換気などに神経質になるお客さんもいるだろうが、開放的なアトリウムを囲っての会場だったので、圧迫感はなく、心理的抵抗はなかった。また、他のスタジオ等に出入りするお客さんたちの声が聞こえてきたりしていたが、それほど、邪魔にはなっていなかった。 「第三部」は、「一部」「二部」と違って、夜間になるので、まわりが静かで暗くなってからの時間が長く、より舞台に集中、引き込まれることとなった。私が見た日は、第一部から続けてみている人が大半で、開演時から手拍子で盛り上がる一体感があった。自分は、3回続けての観劇ではなかったが、やはり最終の「第三部」まで見ると見応えがあった。演者・スタッフともに大変だったろうが、観客も一緒に見続けるというのは、深く入り込むことになるので、終わった後、達成感のようなものを感じることができる。かつての名作が、このような形で甦る舞台に立ち会えてよかったと思った。
オープンシアター2021<オルガンとカウンターテナーのハーモニー>/県民ホール小	<ul style="list-style-type: none"> オルガンは神奈川県民ホールの特徴のひとつだと思うので、オルガンの音色を聴いてもらうのはもちろん、小さい時からホールに足を運んでもらうのに非常に適したコンサートだと思います。親子3代で来場されている家族を見て、ホールにコンサートを聴きに来ることが、特別ではなく休日のあたりまえの行動のひとつになってくれれば素敵だな、と思うと同時に、ホールのスタッフの皆さんには、そのような家族をひとつでも増やす方法を考えて実行していただきたいと思いました。
オープンシアター2021<音楽でめぐる世界の旅>/県民ホール大	<ul style="list-style-type: none"> 県民ホールの公演では東京バレエ団の出演が多かったので、今回東京シティ・バレエ団のダンサーのパフォーマンスを観ることができて、新鮮な感覚がありました。 感染症予防の観点もあるかと思うのですが、ピアニストが言葉で説明せず音で話をする、という設定はとても良かったです。子ども向け、ファミリー向けコンサートという点、どうしてもおしゃべりの時間が多くなってしまったため、初心者ではない観客にとっては少し物足りなさを覚えています。今回の試みで新しい楽しみ方ができた気がします。 <ul style="list-style-type: none"> オープンシアターは、ホールの外にも旗の飾りつけがなされていて、楽しい雰囲気を醸し出しており、ロビー内のかわいらしい風船の装飾は、その前で記念撮影をする親子が後をたたないほど、人気だった。ガラコンサート以外にも無料のミニミニコンサートや、ギャラリーなどのイベントもあり、親子がゆったりと楽しめる一日となっていたと思う。 ガラコンサート以外にも無料のミニミニコンサートや、ギャラリーなどのイベントもあり、親子がゆったりと楽しめる一日となっていたと思う。 ガラコンサートは、パパゲーノの扮装で歌手がMCを務め、飽きさせないよう工夫されたプログラムとなっていた。神奈川県民ホールの大きな舞台を活かして、オーケストラの演奏する前舞台をつかって、ピアノ独奏やバレエが踊るように設営されており、オケも舞台上で演奏という形でバレエのパ・ド・ドゥを見る形だった。器楽演奏だけのプログラムより、歌とバレエ入りで、華やかな舞台で視覚的にも楽しめた。プロジェクターの映像は、やや不鮮明だったが、視覚的なイメージの面でも工夫することは、低年齢の子供たちには必要だろうと思った。

ククノチ ワクマナ ツノボウケ ン/KAAT大	<ul style="list-style-type: none"> ・開演前、アトリウムで、お面づくりワークショップができるようになっており、スタッフの方々の誘導によって、楽しくお面をつくってみることができた。公演への期待感が高まり、よい工夫だと思った。しかし、会場内での開演前の5分間ダンスレッスンは、今ひとつ、要領を得ない。また、せっかく、ダンスを覚えたいけれども、公演の中で、どのタイミングで入ったらいいのか戸惑い、客席でちゃんとダンスに合わせてうまくできた人はあまりいなかったのではないかと。せっかく観客参加の工夫があったのに、そのあと、作品とどうつながるのかのフォローが弱く、また舞台上のパフォーマンスだけの世界にスッと収束していったのが残念だったと思う。総じて「キッズ・プログラム」と銘打ってはいたが、「キッズ」の興味関心を次々と刺激するというよりは、部分的に工夫が見られたというに留まっていたように思う。子供たちは、必ずしもストーリーを必要としないが、ストーリーがあるような、ないような展開の仕方、少し中途半端だったのではないかと。個々のダンサーや美術など、それぞれ力量のある人たちのクリエイションだったと思うだけに、消化不良感が残ったのが残念。（初日だったので、2回目以降、多少、変わっていたかと推測します）
子どもと大人の 音楽堂 [子 ども版] /音 楽堂	<ul style="list-style-type: none"> ・反響板に影絵風な照明が施されており楽しい場づくりが演出されていた ・楽器と奏者の紹介をミックスした演出がコンサートへの親近感を会場全体に与えたと思う ・たたい音が鳴る楽器の持ち込みや質問コーナーなど参加体験に工夫を凝らしておりよかった ・平常時なら素晴らしい催しだと思いが、子ども達の反応が良かっただけにコロナ禍では安全対策がさらに必要だと思った <p>・0歳から聴けるコンサートとしては、音量が大きすぎたと思います。音楽堂は良く響くホールなので、それを見越して音量を調節していただきたかったです。私の勝手な思い込みかもしれませんが、PAを使う方たちは音量が大きすぎるきらいがあるように思います。</p> <p>・開演前の盆踊りは、正直盛り上がっているとは言えませんが、お祭り気分を持つていくには良かったと思いました。</p>
湊横濱荒狗挽 歌/KAAT大	<ul style="list-style-type: none"> ・三人三吉を湊横濱にスライドさせた虚構の湊町横濱が再現されている。 ・演出家が語る暑苦しい、看板役者という類を見ないキャストイングが魅力的であった。 ・芸術監督が変わり、何かが始まることを予感させる作品（舞台）となっている。 <p>・セットの奥行きやせい、収容人数を制限しているせいかはわかりませんが、演技スペースがとても近くに感じられ、終始緊張感を保ったまま鑑賞しました。2時間10分が、とても短く感じられました。</p> <p>・普段任侠物、暴力物を見ることがないので、とても新鮮でした。映像の場合流血シーン等があり、見ようという気持ち起きませんが、舞台の場合あまりそういうことがないので、私のように慣れていない者でも任侠物の世界を覗き見るきっかけになるのだと気づかされました。</p> <p>・「三人吉三」をモチーフにしたハードボイルド現代劇というが、あまり「三人吉三」の筋は関係ない内容だった。出演俳優たちは、個性的な俳優が多く、観劇自体は楽しめたのだが、歌舞伎の「三人吉三」×横浜という要素以外に、今日、このような作劇をする必然性が薄いと思われた。野木萌葱とシライケイタの起用、三人吉三という事前の期待と、実際が少しずれていたように思う。</p> <p>・脚本の問題だが、警察キャリアの唐沢純の内容があまりにも現実離れしている（具体例：警察キャリアは相当の難関試験であり、安易にキャリアを捨てるようなことは現実的にあり得ない。また、拳銃をバンバン発砲しているが、警察での弾数管理は徹底しており、簡単に発砲できない。）役作りとしてはもっと陰険な感じになるのなら、納得だが。</p>
近松心中物語 /KAATホール	<ul style="list-style-type: none"> ・近松の原作を下敷きにした劇作を、簡素化した舞台演出で、より深耕したものと思われる。観客にも大きな期待があったようだが、概ね好評と思われる。ただ、一部のセリフが聞き取りにくかったり、合唱の言葉はかなりの部分が不明だった（私だけであろうか）。よく工夫された舞台で楽しめたと思う。ただ、チケット代は相対的に見て高い。 ・新芸術監督がKAATで取り組もうとしている返信が見え始めてきた印象を感じる作品です。 ・新しい「近松心中物語」をドラマとして取り組まれようとしている意欲を感じさせる演出でした。 ・上演時間帯がここ数年大きく変わりつつありますが、都内から駆け付けるにはやはり厳しい感が否めません。ただし、「夜割」というチケット料金の設定は集客効果が上がる可能性があるように考えます。 ・今回の公演は、役者さんの一人一人の声がとても柔らかく、よく通るように聴こえた気がします。冒頭の歌もとても優しく心地よく響いていました。何か特別な音響の調整があったのでしょうか？ ・「近松心中物語」といえば、蜷川幸雄演出で何度もキャストを変えて上演されてきた名舞台の評判が高いので、芸術監督長塚圭史による新演出への期待は高かった。しかし、抽象的な舞台美術であったがために、江戸時代の様々な掟、慣行が若者たちを追い詰めていったという物語の大枠を感じることができず、心中に向かう2組の男女の必然性が弱まってしまった感じがした。 ・劇の導入部分で、いきなり騒いだ感じからスタートしたが、違和感が有りなかなかに劇に入り込みにくかった。 ・また、主役の忠兵衛と梅川の出会ってから両者の心中に至るプロセスが、今ひとつ納得感がなかった。 ・一方、笠屋与兵衛とお亀のやり取りは、なかなかコミカルで劇の盛り上がり大いに役立っていた。特に松田龍平の哀しくとぼけた演技が秀逸でした。
志村信裕展 「游動」	<ul style="list-style-type: none"> ・映像投影の仕方が、作品ごとに異なり、ひとつひとつの作品は、微妙な光の変化が美しいインスタレーション。KAATのスタジオのブラックボックスを活かした展示であるのは間違いのない。しかし、暗い空間ゆえに、ずっと見続けるのが困難だった。

<p>シャルリー～ 茶色の朝～/ 音楽堂</p>	<p>・音楽的寓話というべきポケットオペラだったが、音楽堂のコンパクトな空間と相まってインパクトのある公演となった。室内オペラの最前線を示す前衛的かつ先駆的な公演で新鮮な驚きをもって拝見した。また、この本邦初演のオペラに向かうまでの導入部として三文オペラをはじめとする第一部が用意されたのもよかった。観客が思っていたよりも多く、若く、音大やフランス文化に関心を持つ人々も引き付けたのかもしれないが、上質な時間空間を共有できたと思われる。ただ、ちょっと残念だったのは第三部。逐語通訳1人なので時間的制約が当初より明らかだったが、スピーカー（やなぎみわ）とジネールの間に明らかに親交がなく、おそらく互いの作品などを見たこともなさそうで、広がりのある会話にならなかったのは大変残念である。やなぎさんの台湾オペラは別のところで話をしてもらえばいいし、ジネール氏の話をもっと聞きたかった。むしろパンフレットの主催者挨拶にあるように主催者（特に実際この公演をフランスで見て、音楽堂での公演実現に努力したスタッフ？）との対談にしたほうがよほど内容があったのでは？</p>
	<p>・館のプロデューサーが自らの目で観てきたものをジャッジし、財団内で開催を検討決定し、招聘し公演する。本当に独自性の高いすばらしい企画でした。オペラそのものはもちろん、3部構成のプログラム、関連企画の実施、インターンの受け入れ、頻繁なSNSでの発信、全てにおいてこの企画に対する熱量が感じられました。</p> <p>・第一部は馴染みのある音楽を新鮮な形で演奏し、第二部は、日本初演の室内オペラと、それぞれに堪能した。室内オペラは、シンプルな舞台美術だが、照明も工夫されていて視覚的にも美しい。しかし、第3部のトークセッションが、やや長いと感じた。作曲家とオンラインでも肉声を聞くことができるのは、せつかくの機会だからと参加したが、高橋氏のレクチャー部分が長く、ブルーノ・ジネール氏の話に至るまでに、相当じらされた感じがした。「茶色の朝」創作にかかわることに限定して、もう少し短く終える構成にしておいてほしかった。</p>
<p>C×C Composer's Journey (作曲家が作曲家を訪ねる旅)/県民ホール小</p>	<p>・「C×C」の今回のような新企画や新しい取り組みは公立文化施設ならではの内容で大変良い。とくに現代音楽のこのような公演はなかなか採算ベースにのらない催しになる可能性があり公演回数や開催そのものを主催者が躊躇しがちだが、内容も興味深く今後も継続していただきたい。</p> <p>・トーク・ショーがはじまる時刻を知らずに来た来場者が、すでに着席している人たちを見てトークの途中で人前を横切り自席に着席することをためらっていた。トーク・ショーに係わる告知をさらに徹底すべきだったかも知れない。</p> <p>・前回モニタリングした「C×C」Vol.1の内容が新鮮だったため今回も鑑賞したが、期待を裏切ることのない公立文化施設ならではの素敵な企画内容だった。こうした公演を末永く続けてもらいたい。</p> <p>・開演前のトークは肩の凝らない楽しい場になっていたと思いますが、トークは公演を鑑賞するすべての人たちに向けて対応したほうがよかったと思います。</p>
<p>冒険者たち～ JOURNEY TO THE WEST～ /KAAT中</p>	<p>・ギャグやコントがふんだんに入った軽めのコメディ。ご当地神奈川の伝承などをうまく取り入れながら、ノリノリでの100分間。楽しみました。</p> <p>・県内での公演を想定した作品作りに取り組まれている点は、新しい試みであり評価したい。</p> <p>・幅広い年齢層に演劇という文化芸術を親しんでいただくという試みとして評価をしたい。</p> <p>・4,800円の入場料金は決して高いわけではないが、初めて演劇を観る方々にとっては抵抗があることが懸念される。ただし、U24、高校生以下料金の設定は他館にもない料金設定で、試みとして期待をしたい。</p> <p>・開演時間の設定が、大きくマチネ寄りにシフトし始めているが、会社勤めの方々にとっては、観劇の機会が制約されることが自分も含めて気がかりでもある。</p> <p>・最初に会場に入った折には、幕を多用し、しっかり作りこむというよりは簡素な装置だが、楽器が多彩で生演奏が楽しく、テント芝居のような、わくわく感をもった。話が展開していくにつれて、ご当地ネタをたくさん入れ込んだ展開で、神奈川県民が面白がれる内容で、それを力のある俳優と演奏家が奮闘しながら演じていて、好感がもてた。</p>
<p>ラビット・ホール/KAAT大</p>	<p>・余計なBGMがなく、出演者同士のセリフのやりとりを引き込まれました。</p>

2 広報宣伝 気づいた点（良かった点、工夫が必要な点）

公演名/施設	ご意見
<p>王将/KAATアトリウム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・王将というこの作品、この演出の世界観をよく表したちらしデザインである。 ・特設ホームページが圧巻であり充実していて来場者への期待感を高めていると思った。 ・Yahooニュースやびあなどインターネットニュースでしっかりと採り上げられており、外出自粛の続く現状ではこうしたコミュニケーション手法を使いこなしていくことの大切さを感じた。 ・今回のような企画の再演などを実施することは、リピートにもつながると考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページがリニューアルされ、KAATがアピールしたいものは何か、ということがよりよくわかるようになった気がします。白井前監督と長塚新監督の対談も少し長いかな？とは思いましたが、非常に聞き応えがあり楽しめました。 ・あまり積極的に観客に近づけない状況下なので仕方ありませんが、観客にとって初めての場所での開催であることに加え、座席の番号を見つけるのが若干わかりにくかったのが、客席の案内をもう少し積極的に行って欲しかったです。 ・スタジオでの開催でも同じかもしれませんが、少し薄暗い状況で黒い椅子に小さな文字で番号が貼ってあるだけですと、老眼の者にとっては座席番号がわかりにくいです。人が座ってしまうと見えませんし。太字にする等番号をもう少し見やすくしていただいたり、客席の1列目の床面に通路側の席番だけでも書いてあったら、席を見つけやすかったような気がします。係員のきめ細やかな案内が難しい状況ですので、ハード面で少しでも工夫できるところはしていただけるとありがたいです。 ・アトリウムに舞台を設置する、という企画を見た時、それだけでワクワクしました。劇場に到着して入場しようとした時に、テントのような雰囲気になっていることに、さらにワクワク感が増しました。大漁旗のような布で外の様子を見せたり隠したりする演出に、興奮が止まらなくなりました。劇場に来る前からワクワクした気分になれるということが、まさに「街に劇場がある醍醐味」だと思いました。 ・せっかく三部作なので、連続して見た方がよいのだろうが、単独で、いずれかの部だけを見るとしたら、というような選択をする人もいたのではないかな。同じ日に見るのか、別々に見るのか、同日に見るなら、間の時間はどう過ごせるのかなどなど、そうした選び方、見方についてのアドバイスなどが、事前の広報宣伝の中にも含まれていたらよかったのではないかな？（見つけられなかっただけか？）
<p>オープンシアター2021<オルガンとカウンターテナーのハーモニー>/県民ホール小</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシのデザインを見て、今年もオープンシアターが行われるということがすぐわかりました。継続的に同じ感じのデザインにしていることによって、一度見たことがある人にとっては内容が想像しやすく、初めて手に取った人にとっては地の黄色が印象的で目に入りやすいと思いました。
<p>オープンシアター2021<音楽でめぐる世界の旅>/県民ホール大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシのデザインを見て、今年もオープンシアターが行われるということがすぐわかりました。継続的に同じ感じのデザインにしていることによって、一度見たことがある人にとっては内容が想像しやすく、初めて手に取った人にとっては地の黄色が印象的で目に入りやすいと思いました。（小ホール公演で記載したのと同じです） <p>チラシには、タイムテーブルや地図が示されていて、わかりやすかったが、ウェブ上では、個々のプログラムの紹介のみで、この日、どのように過ごそうかというプランがたてにくかったのではないかな？</p>
<p>子どもと大人の音楽堂 [子ども版] /音楽堂</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシのデザインや情報量などわかりやすく楽しいものになっていたと思います。 ・地元を対象としてWEBを利用した県民向け広報だった ・平日の昼間なのでどのくらいの集客が見込めるのか？と思っていましたが、夏休み中のせいか、親子連れが多くいたので安心しました。小さい子どもがたくさんいましたが幼稚園や小学校にチラシを配布したのでしょうか？ 広報が行き渡っていると感じました。
<p>ククノチ マナツノ ボウケン/KAAT大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「おとなもこどもも楽しめる」というキャッチコピーつきのチラシが、方々に配布されていたが、ここでいう「こども」は、何歳くらいがメインターゲットだったのだろうか？ 自分が観た回は、客席内の子連れグループの割合が少なかったことから考えても、メインターゲットに情報が届ききっていなかったのではないかなと思う。
<p>湊横濱荒狗挽歌/KAAT大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三人三吉、悪党、世話物、それはハードボイルド現代劇ということだったのだろうか。少々疑問が残った。 ・多様な価格帯の入場料金の設定があること、多様なチケットサービスへの配券、託児サービスなどの併用も集客を増やす工夫となっていると考えます。 ・アンケートの裏面が、展覧会の無料鑑賞の案内になっているのが、いいアイデアだと思いました。 ・舞台美術がとても素敵でしたが、客席からはじっくり見られなかったのが、ホームページにアップされた舞台写真を見て、舞台が終わってからも楽しむことができました。 ・タイトルのつけ方が、よくなかったのではないかな。歌舞伎の外題を模してつけられたのだろうか、歌舞伎の「三人吉座」に想を得たからといって、歌舞伎通でない一般の観客にとって、そうした趣向は、あまり関係なく、むしろ馴染みのないものとして敬遠されたのではないだろうか。トレーラーなどは、ハードボイルド活劇を前面に出す内容だったが、チラシを見ただけでは、どういう作品か、想像するのが難しかったように思う。 ・パンフレット等について、全体的に言えるが内容が分かりづらい点が多い。これは観客の期待を高める手法なのかもしれないが、内容が分からないと具体的にチケット購入に結びつきにくいと思います。

近松心中物語 /KAATホール	<ul style="list-style-type: none"> ・広報は、他の公演と同様に、それなりに行われていたと思われる。リピーターについては不明。なお、アプリのフォームメーカーによるアンケートはよかった。今後結果をぜひうまく運営に結び付けてほしい（とはいえ、他の劇場での経験では回収率が極めて低いという問題があるようである。KAATではどうだったのであろうか。） ・敢えて日常スナップ的な写真を使用したポスターは裏切られ感を助長させる演出だったのでしようか。 ・新たな料金設定「夜割」などの試みも期待できます。 ・ホームページに載っている動画の音がとてもきれいで、特に摺鉦の音が優しく聴こえました。 ・普段着を着た役者さんの姿が90度傾いているチラシのデザインが、とても目を引きました。 ・チラシなどでは、着物姿ではなく現代服の出演者のビジュアルを用いており、現代に問う新たな「近松心中物語」だろうという印象を与える宣伝は、内容と合っていてよかったのではないかな。 ・近松心中物語は有名な作品であるので、周知はしやすかったのではと思ったが、観客の年齢層は中高年が主で、そこを対象と考えると、難しかった面も想定される。
志村信裕展 「游動」	<ul style="list-style-type: none"> ・「近松心中物語」と「湊横濱荒狗挽歌」を観劇した場合、半券があれば無料で見られるというチラシが演劇公演のチラシの束の中にあり、観劇を契機にインスタレーションを見にいった人もいただろうと思う。
シャルリー〜 茶色の朝〜/ 音楽堂	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽堂の一般的な広報とほぼ同じ。昨年のヘンドルのリナルドのほうが情報量が多かったように思われる。プログラムにある主催者の挨拶をもう少し補足して、この時期こういった国際的にインパクトを与えているオペラを日本で初めて行うこと、その意味について伝えてもよかったと思う。 ・関連講座の開催、インターンの受け入れ、といった関連イベントを行う場合、本公演への集客と共にそちらの募集、対応に時間と労力を割かなければなりません。大変だったと思いますが、そういった取り組みが今回の公演を成功に導いたのだと思います。 ・音楽堂で室内オペラを聞きたいという層に加え、関連ワークショップが企画されており、原作の「茶色の朝」に興味関心を持つ層に波及していたのではないかなと思う。しかし、本邦初演の、フランスで注目された短編小説のオペラ化という作品についての説明や、作家、演奏家の情報をすべて掲載しようとすると、チラシには文字が多く、ウェブ版も、かなり情報量が多い。それらを一通り理解するだけでも、ちょっとした作業量なのではないかなと思った。
C×C Composer's Journey(作曲家が作曲家を訪ねる旅)/県民ホール小	<ul style="list-style-type: none"> ・シー・パイ・シリーズの特設WEBは企画イメージを彷彿とさせるモダンなデザインになっており、バウハウス調であることがある意味実験的な取組みを象徴していて関心が湧いた。内容が解説的でないだけ興味を喚起するものになっていると思った。 ・ツイッターやWEBにアップされた動画、特に14曲目の紹介など興味を引くものになっていたと思う。公演への期待が高まりよかったと思う。また配布されたプログラムの内容もよくできていると思った。 ・「C×C」は一度鑑賞すると続けて次の公演にも興味がわくよい取り組みだと思います。リピートのきっかけにもなると感じます。
冒険者たち〜 JOURNEY TO THE WEST〜 /KAAT中	<ul style="list-style-type: none"> ・演出家をはじめ出演者のファンも多いように見受けられる。どちらかというと若年層を中心とする観客ではあったが、世代、性別もほどよいミックスであったと思う。時に演者がセリフをかんだりしているものの、みな暖かく見守っていた。また、客席が思ったよりも埋まっている。ちょっと密で怖いのが、皆で楽しんでいる雰囲気は良い。助成金も獲得できていることがこの公演の実現につながったものと思料。 ・西遊記のリメイクであることはチラシから想像がついたが、冒険者たちというタイトルは、芸術監督の「冒」に由来するのかな。 ・県内広域的な巡回公演が予定されており、KAATの成果と演劇の魅力が周知できることを期待したい。 ・実際にはあったのかもしれませんが、中華街を巻き込む企画があることが望ましい。 ・初日のアフタートークで、このプロジェクトの舞台裏や意図が、直接語られてよく伝わった。しかし、当初、仮チラシやチラシを見ただけでは、「冒険者たち」というタイトルで子供向けミュージカルや学芸会でよく演じられている劇があるので、同じようなものなのか、そうでないのか、よく分からなかった。
ラビット・ ホール/KAAT 大	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに掲載された舞台写真の画質があまり良くない気がします。 ・当日配布のプログラムノートの芸術監督の挨拶のページですが、最後の「KAAT神奈川芸術劇場芸術監督」で改行でお名前が記載されていますが、「芸術監督」の前で改行してる方が見やすくなりやすいと思いました。

3 サービス 気づいた点（良かった点、工夫が必要な点）

公演名/施設	ご意見
<p>王将/KAATアトリウム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた出入口及び新型コロナでの制約など、極めて厳しい上演条件にも関わらず、スムーズな舞台転換、客入れ・客出を実現されていた。 ・チケット販売やインフォメーションなど、小屋の付属機能も演出された形できちんとしていていい印象だった。 ・開場までの時間、二階渡り廊下のソファで休んでいられることを受付で伝えられた点はよかったと思う。 ・足元にココアとパーソナルサポートのQRコードが貼ってありよかったが、アナウンスなどで補足した方がよかったのではないかな。 ・あまり積極的に観客に近づけない状況下なので仕方ありませんが、観客にとって初めての場所での開催であることに加え、座席の番号を見つけるのが若干わかりにくかったので、客席の案内をもう少し積極的に行って欲しかったです。 ・コロナ対応が徹底していて、安心して会場内に入れた。椅子下の荷物入れのカゴの案内も入り口でしてくれたのがよかった。
<p>オープンシアター2021<オルガンとカウンターテナーのハーモニー>/県民ホール小</p>	<p>意見無し。</p>
<p>オープンシアター2021<音楽でめぐる世界の旅>/県民ホール大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応が徹底していて、安心して会場内に入れた。 ・以前に来た際には、スタッフがプログラムを手渡しするのに手間取って入場行列が出来ていたが、今回は、コロナのこともあり、置き場所から聴衆が自分でとる方式だったので、混乱もなく、スムーズだった。親子づれが多い中で、何部必要かということも、聴衆に任されるので、コロナでなくても、セルフサービス方式の方がよいのかもしれないと思った。
<p>子どもと大人の音楽堂 [子ども版] /音楽堂</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人流抑制やコロナ対策を徹底すべき状況だったので、来場者へのコロナ対応を注意する場内放送をさらに丁寧に戻り繰り返すべきだと思った ・席についても延々おしゃべりをやめない高齢者や大声で友達の名前を呼び続ける親子など、それを注意できないレセプションに疑問を感じた（手にプレートを持って行ったり来たりはしていた）
<p>ククノチ ワクワク マナツノ ボウケン/KAAT大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お面づくりワークショップのスタッフが、親しみやすく、よかった。 ・コロナ対応が徹底していて、安心して会場内に入れた。
<p>湊横濱荒狗挽歌/KAAT大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ禍での制約ある公演ではありましたが、スムーズな対応が図られていました。また、喫煙に対する注意喚起なども今日的な対応として掲示がされていました。 ・コロナ対応が徹底していて、安心して会場内に入れた。 ・コロナウィルスの対応なども、十分に気をつけた対応であった。
<p>近松心中物語/KAATホール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台が終了して退場する際、主催者側は、分散退場を目指していたと思われるが、アナウンスが遅かったため、皆でんでんで出口に向かい、整然とはいいがたい状況であった。そもそもこの劇場はビルの中にあり、ロビーが狭く、入退場時には混雑する。この時期もう少し配慮があったほうが良いと思われる。ただ、階段を使った退場の誘導はよかった。なお、インターミッションなしの2時間20分は当初どうかと思われたが、意外に問題なく、舞台に集中できた。 ・新型コロナ禍での制約ある公演ではありましたが、スムーズな対応が図られていました。 ・開演数分前にお手洗いにいった際の係員の方の「まもなく開演です」の呼びかけが、少し強く聞こえてしまいました。開演時間に遅れないように、という気遣いだとわかっているのですが、平日夜の公演は仕事を終えて急いで駆けつける人も多く、加えて2時間30分休憩無しの公演なので、もう少し声のトーンを意識していただくと良かったです。 ・これまで比較的余裕を持って劇場に到着していたので知らなかったのですが、開演時間が迫った状態で来館すると、係員の方が迅速にエレベーターを案内してくださることを、今回初めて知りました。テキパキと動いてくださり、とても気持ち良く移動することができました。 ・コロナ対応が徹底していて、安心して会場内に入れた。 ・今回、ろう者のための字幕サービスの利用を体験させてもらった。こうした試みは、広く知られて利用されるようになるとよいと思う。当日は、数名のろう者と思われる人々が観劇していた。ただ、暗転時に黒くしても若干、タブレットの電源が明かりになってしまう関係上、後ろの方の座席での使用に限定されてしまうのは、致し方ないだろうが、そのことは、当事者に事前に知らされているか、少し気になった。秋元作品のように、事前に読むことが可能な作品の場合、字幕を利用せずに、前の方の座席を希望するろう者もいるかもしれないと思った。 ・また、規制退場の際、私の隣の座席のろう者は、どうしてよいか、状況が分からなかったようだ。後ろの列にいたつきそいの人が手話でタイミングについて説明していたので退場のタイミングがわかったようだが、係員からの説明はなかった。他の劇場で、規制退場について、アナウンスではなく、退場を待ってください、または、退場していただきと示すプラカードを通路で示し順番に退場のタイミングを示していくところもあったので、あらかじめ、ろう者がいると分かっているのだったら、そうした対応があってもよいと思った。
<p>志村信裕展「游動」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・映像が投影されている台のそばに行った際に、係員が、この台は座ってもよいと言いに来てくれた。

シャルリー～ 茶色の朝～/ 音楽堂	・音楽堂をはじめとして神奈川県立施設はおおむね接客が良いと思う。施設の老朽化等による工夫は必要かも。
C×C Composer's Journey(作曲家が作曲家を訪ねる旅)/県民ホール小	・コロナ禍が半ば落ち着いてきている状況を踏まえ、どこまで制限緩和に踏み切れるか検討を重ねた対応だったと思う。 ・神奈川県「新型コロナ対策パーソナルサポート」のQRコード読み取りについては、もっと積極的に声掛けをしてもいいのではないかと思った。 ・公演直前に県民ホールの山下公園側道路に消防車が急行するキッチンカーのボヤがあったようだが、安全にかかわる説明・報告を来場者に向けてした方がよかったのではないかと思った。 ・オミクロン株(コロナ)による感染拡大状況が進む中の公演でオペレーションに不安があったが、座席は一つ置きの方がよかったのではないかと思う。 ・係員の対応にはとくに意見はありません。
冒険者たち～ JOURNEY TO THE WEST～ /KAAT中	・1階にチャイナタウンとコラボしたインスタレーションが展示されている。初めての試みと聞いて驚いた。中華街は目と鼻の先なので、過去にも当然いろいろなイベントを共同で行っていると思っていた。遅まきながらの取り組みではあるが始めることが大切か。(そういえば以前中華街でランチした後、KAATへの行き方を聞いたところ、店の人たち全員KAATを知らなかったことを思い出しました。地元にも知られることも大切ですね。) ・新型コロナ禍での制約ある公演ではありましたが、スムーズな対応が図られていました。
ラビット・ ホール/KAAT 大	・会場に着いた時間開演まであまり時間がなかったのですが、あせらせることなく非常にスムーズに案内してくださり、ありがたかったです。

4 施設について

公演名/施設	ご意見
王将/KAATア トリウム	・共通ロビーの利活用は、劇場整備時から期待であり、これまでも何度か公演が行われてきた。今回の王将公演も魅力的な公演となっていることから劇場の魅力をさらに多彩に発信していくことと可能性を試していくためにも同様の試みを続けていただくことを期待したい。 ・ステージ脇からエントランスのトイレに行く利用者を何人か見かけたが、トイレがあることを知っている方しかわからないと思った。 ・スタジオでの開催でも同じかもしれませんが、少し薄暗い状況で黒い椅子に小さな文字で番号が貼ってあるだけですと、老眼の者にとっては座席番号がわかりにくい。人が座ってしまうと見えませんし。太字にする等番号をもう少し見やすくしていただいたり、客席の1列目の床面に通路側の席番だけでも書いてあったら、席を見つけやすかったような気がします。係員のきめ細やかな案内が難しい状況ですので、ハード面で少しでも工夫できるところはしていただくとありがたいです。 ・座席がパイプ椅子なのは仕方ないが、階段状の段差の高さなど、客席の設営については、年配の観客には、もう少し配慮が必要ではなかったか。 ・通路によっては、段差が大きいところがあり、注意が必要だと思った。
オープンシア ター2021<オル ガンとカウ ンターテナ ーのハーモ ニー>/県民ホ ール小	・もぎりのあたりの動線が、いつもより広がったような気がします。小さな子どもたちは保護者の方たちと並んで入場することになると思うので、それに合わせて広くしていたのでしょうか？階段もあるので非常にいいこどだなと感じました。
オープンシア ター2021<音 楽でめぐる 世界の旅>/県 民ホール大	・2階エントランスのミニミニコンサートの様子が大ホールのロビーから見えるので、大ホールの観客も自然に楽しんでいたように見えました。天気にも恵まれ、オープンシアターの名に相応しいひとときだったと思います。大ホールのロビーは本当に素敵な空間だと毎回感じます。 ・オープンシアターを盛り上げようと、風船のデコレーションがよかったし、揃いの黄色いTシャツのスタッフも、的確に誘導をされており、よい雰囲気だった。
子どもと大人 の音楽堂【子 ども版】/音 楽堂	・大友良英さんがステージ上で会場に向けて、コロナ禍のため参加型の演出ができない旨の説明をしっかりとっており、アーティスト側の気持ちが伝わりました。 ・親子連れが多かったので、もぎりの動線が狭くなかったかな？と思いました。もう少し通路部分の広さが取れると良いのですが、スペース的に難しいのでしょうか？いつも通りではなく、0歳からOK=抱っこが多い、手をつないで横に2列になっていることが多い、荷物が多い、ということをしっかり想定して動線を考えていただければ、いっそう親子連れが来やすいホールになっていくと思います。
ククノチ ワ クワク マナ ツノ ボウケ ン/KAAT大	・コロナ対応への協力を求めるアナウンスがなされ、客席内では会話をする人は限られていたこともあり、非常に静かに、スムーズな誘導がなされていた。

湊横濱荒狗挽歌/KAAT大	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ禍での制約ある公演ではありましたが、スムーズな対応が図られていました。また、喫煙に対する注意喚起なども今日的な対応として掲示がされていました。 ・キノシールドで抗ウイルス・抗菌加工をした、というシールドが貼ってあるのを見ました。客の入れ替えのたびに消毒をするのは、本当に大変だと思いますので、しっかり効果があらわれてくれることを祈っています。 ・キノシールドをきっかけにロッカーの利用を再開したのでしょうか？ 私自身もそうですが冬に向けてロッカーを利用したい方が増えてくると思うので、ありがたいです。 ・特に問題はなく、座席と座席の間隔もあけられていて、コロナ禍の観客の心理に配慮した、快適な空間だと思った。
近松心中物語/KAATホール	<ul style="list-style-type: none"> ・施設自体ビルの中にあるため、どうしてもロビーが密になる。この点は構造上の問題なのでいかんともしがたいが。 ・コロナの影響が少なくなったのか、観客の間隔が一個おきではなく、隣り合った箇所が多く見られた。緊急事態宣言下ではもう少し、間隔について気をつけるべきでは。
志村信裕展「游動」	意見無し
シャルリー～茶色の朝～/音楽堂	<ul style="list-style-type: none"> ・古いが音響はよく、居心地もいいホールと思う。 ・ロッカーが使えるようになって良かったです。 ・会場内は、座席と座席の間が狭く、人の出入りがある場合は、その通路の人が一旦、立ち上がって場所を譲るなどしないと通りにくいこともあり、開演前や休憩後の着席は時間がかかる感じがした。 ・コロナ対応で、ロビーの椅子で利用できる部分が限られているため、ロビーで休憩することができなかった。いきおい、座席で座り続けることになった。
C×C Composer's Journey(作曲家が作曲家を訪ねる旅)/県民ホール小	<ul style="list-style-type: none"> ・整理の行き届いたホワイエだったと思う。 ・アルコール消毒液が各所に配置されていて安心できた。
冒険者たち～JOURNEY TO THE WEST～/KAAT中	・中劇場での公演であり、可動の椅子席がやや硬い。我慢できないほどではないが、年配者にはつらいかもです。意外に客席間が近く、密な感じはちょっと怖い。換気も十分行っているとは思いますが、その点きちんと説明してほしい。
ラビット・ホール/KAAT大	意見無し

5 自由意見

公演名/施設	ご意見
王将/KAATアトリウム	<ul style="list-style-type: none"> ・館内アナウンスで座席に着いたらおしゃべりをひかえるよう伝えられたが、ずっと喋り続けている人たちがいる。残念だが業界関係者のようだった。 ・アトリウムに舞台を設置する、という企画を見た時、それだけでワクワクしました。劇場に到着して入場しようとした時に、テントのような雰囲気になっていることに、さらにワクワク感が増しました。大漁旗のような布で外の様子を見せたり隠したりする演出に、興奮が止まらなくなりました。劇場に来る前からワクワクした気分になれるということが、まさに「街に劇場がある醍醐味」だと思いました。 ・第一部と第二部との間の時間に、2階、3階まで上がってみたが、幕でおおわれた特設会場の周囲に、小道具等がおかれている様子が、興味深く、目をひいた。長塚芸術監督の思惑が、活かされた設営だったと思う。作品の内容としては、物語性が強く、もともとはリアリズムを想定して書かれた戯曲でありながら、今回の演出では、装置や小道具などはリアリズムを追究していない。それでも、俳優陣の力で、十分にリアリティのある物語として観客を引き込んでいたと思う。 ・特設会場での三部作の連続上演という、果敢な取り組み、当初はどうなるのか心配だったが、作品のよさと俳優陣のよさが相俟って、よい企画となったと思う。
オープンシアター2021<オルガンとカウンターテナーのハーモニー>/県民ホール小	・蔓延防止等重点措置期間中なので、広報もしにくく、どのくらいの人が来場してくれるのか不安だったのではないかと思います。遠出ができないこともあるのか、思ったよりたくさんの家族連れが来場してくれていて、本当に良かったです。

<p>オープンシアター2021<音楽でめぐる世界の旅>/県民ホール大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1階のエントランスやロビーを見渡した時、あまり混み合っているようには感じられなかったのですが、ホールに入ってたくさんのお客がいるのを見て安心しました。 ・ホール内で静かに開演を待つ多くの人を見て、この1年数ヶ月でこのな状態があたりまえになってしまったのかな、と思いました。感染症拡大を防ぐにはいいことだと思いますが、開演を待つ間、休憩時間、終演後にその日の公演について家族、友人、時には知らない人同士で会話がなされている様子は、ホールや劇場を輝かせる要素のひとつと個人的には思っています。今の状態があたりまえになるのではなく、落ち着いた時にはまた以前のような楽しい時間がロビーに戻って来て欲しいです。 ・ホール内のデコレーションが、楽しさを高めていて、好感がもてた一方、ギャラリーで行われていた「手のたび」展は、少し寂しい感じがした。作家が、手触りにこだわっているというので、部分的にでも、作品や素材に触れられる展示があったらよかったのだろうが、コロナ感染防止の観点から、提案されなかったのだろうと推測した。やや残念だった。 ・ミニミニコンサートは、天候にもめぐまれ、屋外で新緑が美しいなかで演奏された。気持ちはよかったが、日差しが強く、金管楽器奏者も聴衆も、暑かったのではないかと思う。
<p>子どもと大人の音楽堂 [子ども版] / 音楽堂</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企画自体は素晴らしい内容でした。子どもにとっては自然と音楽が好きになり、親子のために楽しい思い出づくりができるコンサートになったと思います。 ・本当だったら舞台と客席が一体となったコンサートになったのですが、声は出せない、あまり近づけない、等々子ども対象にした催し物では難しい条件が揃ってしまって、演奏者としてはやりにくかったかもしれません。しかしこの1年半で静かにしていることに慣れたらしい子どもたちにとっては、楽しい時間になったのではないかと感じました。さまざまな制限がある中、演奏家もスタッフも子どもたちを楽しませようとして下さったことは、しっかり伝わったと思います。
<p>ククノチ ワクワク マナツノ ボウケン/KAAT大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「キッズ」という想定される年齢は、未就学児から小学生くらいまで幅広く、発達段階も大きくことなるので、「こども」という漠然とした想定で、幅広い子どもが楽しめる作品づくりは、かなり難しいと思います。キッズ・プログラムのシリーズとして、いくつもの作品が生まれてきていると思いますが、取り組んできたアーティストが毎回異なるので、その都度、初めての試みになっているのだと思う。子どもたちの巻き込み方が巧みだった作品も、今ひとつだった作品もありますが、海外のノンバーバル・パフォーマンスの経験豊かなグループなどの作品を研究するなどして、大人も子どもも楽しめる作品群の創造は、追究を続けていって欲しいと思います。
<p>湊横濱荒狗狹歌/KAAT大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャストینگが大変に魅力的でした。また、若いスタッフによる舞台制作もこれからの可能性を高める試みとして重要になると考えます。 ・KAAT PAPERをととても興味深く読みました。特に、イラストの地図が見やすく、可愛らしくて良かったです。 ・不勉強のため「三人吉三」を知らないまま観劇しました。とても興味深く拝見しましたが、原作が気になったので帰宅後あらすじを読んでみました。「この原作からあんな発想が生まれるのか」と感じ入ったと同時に、さまざまな分野において、過去の作品にインスパイアされて全く新しい作品が生まれるという営みが行われているのだな、とあらためて思い至りました。 ・作家、演出家、出演者などが、演劇ファンにとっては、面白い組み合わせだったが、一般客に遡及するには、売り出し方が少し地味だったのではないかと。せっかくの試みが、もったいない気がした。また、ライブ配信をしたようだが、その情報の発信も、あまり広がってなかったのではないかと。緊急事態宣言の発出、延長という事態にあって、想定外のことも多かったとは思いますが、力作の舞台が、あまり広く見てもらえなかったとしたら、もったいなかったように思う。 ・コロナウィルスがまだ収束していない状況で、このような公演を開催するのは、関係者皆様の並々なるご苦労があると推察いたします。
<p>近松心中物語 /KAATホール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・KAATは周辺に比べ物価が高いように思う。チケット代も、レストラン代も、また同時期開催の展示会もあの規模で入場料800円は、かなり敷居が高いのではないだろうか。価格は、基本、市場のニーズによって決まるので、価格帯を少し下げて入場者数を増やすという選択肢もある。あるいは逆に密を避けるためにあえて高価格を維持しているのだろうか。いずれにせよ一定の戦略があって価格設定していると想定されるが、駅から近い、せっかくの空間であるので、できるだけ多くの人に利用してもらおうよう活かして欲しい。 ・北九州、豊橋、兵庫、枚方、松本での公演も予定されており、KAATが発信することができる作品が増えることを期待したいと考えます。 ・休憩時間中に来場者同士が交流している様子を見ると、芸術文化が広く日常に膾炙していると感じられ、とても幸せな気持ちになりました。今回の公演に休憩時間がないのが演出上の理由なのか、緊急事態宣言に伴って退館時間を早めるためなのかはわかりませんが、制約が無くなった時には、そういったことも加味して休憩時間を決めていただきたいなと思います。 ・音楽にスチャダラパーが起用されていたので、斬新な音楽、演出を期待したが、期待しすぎたのか、特に印象に残るものではなかった。 ・大勢の出演者がおり、全体のストーリーを纏めていくのが大変だったと思います。
<p>志村信裕展「游動」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会場内は、真っ暗な中に映像作品が展示されているので、明るい場外から入ると、足元も不安になるくらい暗い。作品リストを参照するのも困難。少し目が慣れてくると動けるが、それでも心理的に不安感があり、あまり長時間、作品を見続けたいとは思えなかった。鑑賞するつもりでいた予定時間よりも、早く出てきてしまった。

<p>シャルリー～ 茶色の朝～/ 音楽堂</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年のヘンデルに続いて、今度はシャルリーと、非常に揺れ幅の大きな豊富なラインナップで、音楽堂の音響やコンパクトな空間とあいまった上質な公演に仕上がったと思う。ヘンデルの良さや見どころなどは今更説明するまでもないと思うが、今回は（勇気ある？）主催者の考えや意見を聞いてみたかった。 ・ スタッフと演奏家のみなさんの強い思いが伝わってきた公演でした。公演そのものも、その後のトークセッションも本当にすばしかったです。 ・ ブックリーディングワークショップというものに初めて参加してみたのですが、こちらでも想像以上に充実した時間を過ごさせてもらえました。本公演の制作、広報にプラスアルファの業務が必要になるので現場は大変だと思いますが、またぜひ開催していただきたいです。 ・ 2018年にフランスで初演された話題のオペラが、早々に日本でも上演されたことは素晴らしいと思った。コロナ対応で演奏家たちの来日も大変だったろうと推測されるから、無事に上演されてよかったと思う。
<p>C×C Composer's Journey(作曲 家が作曲家を 訪ねる旅)/県 民ホール小</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当日いただいたC×Cのプログラムの内容がよくできていたと思います。
<p>冒険者たち～ JOURNEY TO THE WEST～ /KAAT中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公演時間も短く、凝縮された軽い笑いで、楽しいひと時を過ごすことができた。ただ、4,800円のチケットを購入してまで見るかは、微妙。（中華街でのご飯を選ぶ人もいると思われる。競合するのは、他の時間制約的活動全般であり、他の劇場との差別化だけではない、ということを変更して思った。） ・ KAATの1階に入ったところ、ちょうど春節の飾りがアトリウムにあって目を引いた。「冒険者たち」の雰囲気ともあっていよかった。 ・ カナガワ・ツアー・プロジェクトの、この先の公演がどう受け止められるか楽しみだ。楽しい作品ではあるけれど、長塚氏がこれまで手掛けてきた作品には、作品の志向性に幅があるので、緊密なドラマも期待したい。今後、KAATで、様々な演劇を提供していく際に、演劇の志向性もバラエティに富むラインナップになっていくのならば、事前にどういう方向性の作品か伝える仕方を工夫した方がよいだろうと思う。
<p>ラビット・ ホール/KAAT 大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出演者の感染で開幕が遅れ、お客様への連絡等大変だったと思いますが、無事公演ができて本当に良かったです。まだまだ気が抜けない日々が続きそうですが、これからも興味深い催し物を開催し続けていただけることを一市民として期待しています。